

2023年5月18日(水)

マニアックになろう! ~第1回親の学び場「^{ひじりらぼ}聖塾」より

先週土曜日、中学保護者会終了後から約1時間半、101教室にて今年度1回目の「聖塾」を開催いたしました。この講座は、私が教頭時代から始めた保護者を対象とした学習会で、共通テーマを「思春期の子育てにいかに向き合うか」として、教育制度のこと、発達段階に応じた対処法など家庭で直面する悩みに役立つヒント等を共に学び、考えるという企画です。今回は、「偏差値45からの大学進学」と題して話をさせていただきました。中学校全体(在籍344名)で158名(141家族)のご参加をいただきました。お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。

さて、経済活動に限らず様々な分野でグローバル化が進行する先の見えない時代にあって、いかに大学進学・選択を考えればいいのか。確実に保護者の時代とは、社会環境も大きく変わっている現在、人生100年という時代を生きる上で、大学における学びと社会との関わりはどうあるべきなのでしょう。

子どもたちは、日本には約800近い大学があり、2200を超える学部の中から最終的に入学する1つの大学・学部・学科は、どのようにして選択すれば良いのでしょうか?改めて、子ども一人ひとりが「なぜ大学に行く必要があるのか」「大学で何を学ぶことができるのか」を真剣に考えなくてはならない時代とも言えるのです。偏差値による大学ランキングや最近では就職力ランキングなども存在しますが、それが果たしてどのような意味を持っているのでしょうか。

むしろ、私は、受験科目の選択より受験雑誌や説明会では得られないディープな情報を得るべきだと考えています。高度経済成長期には、「大学での学術知識は実社会では役に立たない」と豪語する企業人もいましたが、今は「学術的研究による学びへの姿勢や能力」こそが求められています、と言えるでしょう。生成AIとどう向き合うかも話題になっていますが、その意味で「マニアックな人になろう!」と生徒たちに伝えたいのです。

当然、大学合格はゴールでもなく、中学高校は受験のテクニックを教える場でもなく、「学びの種子を蒔く」学校であり続けたいと願っています。科学分野が細分化した現在、入学試験を学部学科ごとに細かく分けるのではなく、入学後の学習経験を積んでから後に学びたい分野を選抜できるようにしてほしいものです。

校長 石飛 一吉